

## 【審査論文】

## チェコ共和国の子どもによる図形の見立て (2) — 描画の特徴と性差 —

島田由紀子

### What images do Czech children have concerning geometrical shapes (2) — Characteristics in Drawing and Sex Difference —

Yukiko SHIMADA

#### 要旨

これまで、子どもの描画表現は、主に年齢的な発達の側面を中心に調査研究が行われてきたが、近年、性別によって造形表現が異なることも指摘されている。また、図形を提示した見立ての描画表現の特徴は、自由画の描画表現とは異なることも考えられる。これらのことから、前報で取り上げた、チェコ共和国の幼稚園児と小学生67名の図形の見立ての描画表現について、先行研究の見立ての描画発達の過程や分類との比較研究を行うとともに、自由画の性による表現の特徴について照らし合わせ、検討する。

調査方法は、A3用紙1枚に図形三角、丸、四角を各6個、さらに各2個ずつ、ピンク・黄・青に塗った図形、計18個を用意した。これらの図形に対し、何かに見立て線描を描き加えて表すよう指示した。調査時間は、子ども自身が終了を認めるまで行った。2010年、2011年に調査を実施した。

見立てが不成立の場合は、どの分類においても大きな性差は認められなかった。見立てが成立している場合は、反復表現が女兒の方が多くみられる傾向があり、それは自由画の性差の特徴に共通していた。また、2個の図形を用いた描画表現では、「乗り物」が描かれることが多く、自由画では男児特有のモチーフとされているが、図形の見立ての描画表現では、女兒にもみられた。また、花などのモチーフを男児が描くことも少なくなかった。

自由画では、自分の描きたい表現が優先されるので、性とモチーフが結びつきやすいが、条件が定められた中での描画表現になると、性差による特徴は強調されなくなる傾向に向かうことが考えられた。したがって、保育活動での教材や画材、あるいは課題によっては、本来の自発的な表現とは異なることが示唆された。

キーワード：チェコ共和国、子ども、イメージ、見立て、描画、図形、性差

Czech Republic, children, image, geometrical shapes, drawing, diagram, sex difference

#### 1. はじめに

これまで子どもの描画発達に関する先行研究は数多くみられる。V.ローウェンフェルド<sup>1)</sup>がその代表的な研究者のひとりであり、発達段階を中心とした研究を行ってきた。R.ケロッグ<sup>2)</sup>も描画に表現された形

について、スクリブルの時期からの発達過程を軸に分類している。こうした年齢や月齢を軸とした発達段階に沿った研究が行われている一方、性別<sup>3)</sup>による描画表現の特徴や描画発達過程の違いを取り上げることはほとんどなかった。描画表現や指導法についてエピソードを紹介している報告の中では、描画の紹介とともに性別について触れていることも多い。そのひとつは、チゼックに友人のW.ヴィオラがインタビュー、あるいは描画指導の様子を観察する中で記された「チゼックの美術教育」<sup>4)</sup>である。紹介されている描画活動の様子には、子ども自身の性別や、彼、彼女、といった表現がされている。しかし、指導法に関する質疑では、性別に言及した指導法や、描画表現の特徴はほとんど語られていない。W.L.ブリテン<sup>5)</sup>は著書の中で、子どもの描画とともにその背景となる情報やエピソードを紹介し、その多くに性別の明記がされており、例えばトラックの描画には男児特有のトラック（乗り物）への関心の高さが紹介されているが、性別による特徴としての記述はほとんどみられない。これらのことから、子どもの描画表現や描画発達を考えると、性による差異や共通性について、積極的に捉えようとはしなかった可能性が考えられる。

日本の描画発達の先行研究でも、年齢や学年による比較検討による報告が中心であった。形からの見立てに関する先行研究においても、横出・寺戸<sup>6)</sup>や上野<sup>7)</sup>、若山<sup>8)</sup>の報告では、性差を取り上げてはいない。

しかし、近年では、年齢だけではなく性差による検討も少しずつ増えている。幼児期の描画研究では、平田<sup>9)</sup>が調査結果の中で、年齢とともに性別による項目を立て、描画表現の性差についても触れており、皆本<sup>10)</sup>は、性別による描画の表現の特徴について、表にまとめている。立体の造形表現では、宇佐美<sup>11)</sup>が女兒の装飾性と男児の形態へのこだわりを指摘し、さらに枝の好みについても男児は太く長いものを、女兒は細く短いものを好む傾向にあることを報告している<sup>12)</sup>。色彩研究の多くでは、性別による比較検討がされており、酒井ら<sup>13)</sup>は色彩嗜好に性差があることを、清水<sup>14)</sup>もピンクを中心に性差について言及している。色彩研究では、子どもだけではなく成人についても性別による比較検討が行われることが多い。おそらく、色彩に対する感情や感覚には男女間に差があることが、これまでの調査研究の歴史から明らかであり、一方、描画は必ずしも色彩を用いることが条件にはなっていないので、線描だけでみたときには、色彩ほどの性差が見えにくいと考えられているのではないだろうか。

## 2. 目的

ここでは、前報で取り上げたチェコ共和国（以下、チェコ）の子どもの図形による見立ての描画表現の特徴について、性差を中心に考えていきたい。提示された図形から見立てた描画表現の性別による特徴そして、男児と女兒の共通点と差異を見出すことを試みる。見立ての描画の発達過程<sup>15)</sup>に沿った分類を行い、そこに自由画で指摘されてきた性差の特徴を重ねることで、それぞれの表現を把握する。このことにより、描画表現では、恒常的に性差がみられたり、共通性が認められたりするのかが、明らかにする。性差があるといっても、課題や素材が異なれば、その表現の性差にも変化がみられることが予想され、今後の保育活動の教材や画材、課題の提示方法を再考することにつながると思った。

## 3. 方法

### (1) 調査用紙

A3の調査用紙をひとり1枚使用した。調査用紙には、図形三角、丸、四角（以下、△○□）が各6個、計18個印刷されている。また、各図形の2個ずつが、ピンク、黄、青で塗られている。色彩の選択は、チェコと日本の子どもの色彩感情を調査した結果<sup>16)</sup>により、両国に共通して女兒が好きな色であるピンク、男

児の好きな色である青を選んだ。ピンクと青は、性による色の使い分けの代表的な色であると考えられ、酒井ら<sup>17)</sup>の色彩嗜好調査でも、男児は青、女児は桃色が好まれ、特に桃色は男児も女児も女の子色と認識しているとの報告があり、黄は、千々岩<sup>18)</sup>の調査で、両者に好まれる色という結果が得られていることから、選定した。

## (2) 手続き

対象となった幼稚園、小学校教諭は全員チェコ語で通常の授業を行っている。今回の調査の指示では、チェコ語を日常会話としているチェコ人と日本人が担当した。調査の手続きは、事前にマニュアルを用意し、調査員はそれに従って進めることで、指示を統一させた。

子どもに調査用紙を提示し、図形を何かに見立て、点や線を描き加えるよう指示した。見立てて描き加えるときに、調査用紙を好きな方向に回しても良いこと、どの図形から始めても良いことを伝えた。画材は鉛筆、または黒のサインペンを用意した。調査の形式は、幼稚園児については調査員との1対1の対面で、小学生は教室で担任の教師による指示で一斉に調査を行った。

## (3) 調査対象者

調査対象者は、チェコ共和国の幼稚園児56名（3歳男児2名・女児1名、4歳男児7名、女児12名、5歳男児6名・女児17名、6歳男児5名・女児6名）、小学生11名（9歳男児3名・女児2名、10歳男児3名・女児3名）である。

## (4) 調査時間

調査時間は定めず、子ども自身が完成や終了を認めるまで行った。

## (5) 調査年月

調査は、2010年2月、2011年3月に実施した。

## (6) 調査を行った幼稚園、小学校

幼稚園はプラハ市内にある、1クラス20名前後、小学校はトホロビツェの1学年1クラスの20名～30名前後の在籍数で、どちらも公立である。住宅街でありながらも、自然に囲まれた環境に立地している。

# 4. 結果と考察

## (1) 見立ての描画が不成立の場合

図形の見立ての不成立の描画表現の分類は、先行研究<sup>19)</sup>に倣い以下の表のようにまとめた。

表1 図形の見立ての不成立の描画表現分類

白紙	見立てて描くことが理解できていない
無関係に描く	図形とは無関係に好きなように描く
重ね描き	図形の輪郭線に沿って線を描く
塗りつぶし	図形の面を塗りつぶす
内に描く	図形を意識して内側に収まるよう描く
外に描く	図形を意識して外側に描く

見立ての描画が不成立の場合は、何も描かれていない白紙、こちらの指示とは無関係に描く、図形の輪郭線に重ねて線を描く、図形を塗りつぶす、図形を意識して中に無関係に描く、同様に図形の外に描く、という6つに分類することができる。今回の調査では、提示した図形の面は、すでに色で塗られていることから、「塗りつぶし」に該当する描画はなかった。

① 図形と無関係に描く

提示されている図形や見立てとは無関係に、好きなように描いている場合を指す。

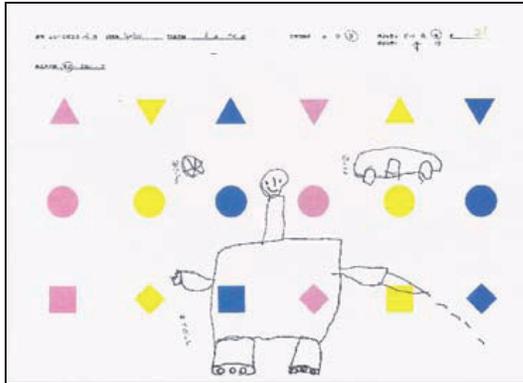


図1 5歳 男児

左上から：ボール、車、ロボット

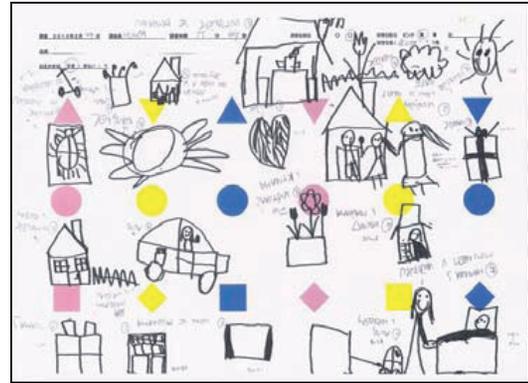


図2 5歳 女児

左上から：キックボード、りんごの木、家の中はクリスマス、花、家と庭、雲、太陽  
左中央から：虫、飴、ハート、姉がコーヒーを買いに行くところ、プレゼント、家、フェンス、車、花と花瓶、おもちゃ屋  
左下から：トラム、貨物列車、窓とカーテン、車と台車、お母さんと赤ちゃん

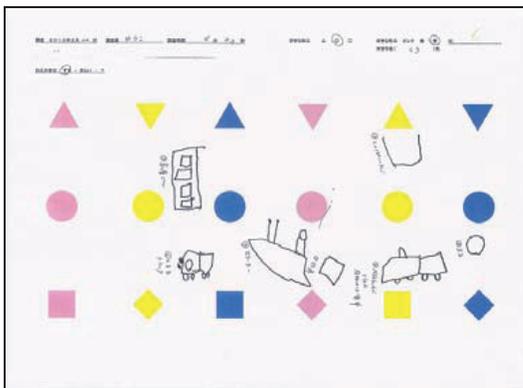


図3 4歳 男児

左上から：高層ビル、失敗した  
左下から：車、スクーター、四角、貨物列車、丸

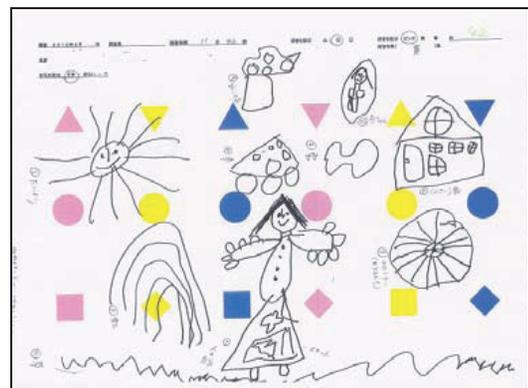


図4 5歳 女児

左上から：りんごの木、赤ちゃん  
左中央から：太陽、車、雲、小さい家  
左下から：虹、自分、遊園地

図形と無関係に描いたものは、小学生では皆無で、この表現は幼稚園児のみであった。図1、図2ともに、図形を何かに見立てて描画表現する、という指示を理解していない。図1の男児は余白の部分に描いたり、ロボットの体の中央に青い□とピンクの◇がバランスよく囲んでいたりすることから、図形と無関係に描きながらも、図形の位置を意識している様子がうかがえる。図2の女児も、図形を避けたり、意識したりしているようにも見えるが、モチーフをみると図形とは無関係な配置になっていることがわかる。図3は、図形を意識しながらも、それを用いるということには至っていない。右上の図形黄△に四角を描き加えているので、一見、「家」を表しているようにも見えるが、自身は「失敗した」と答えている。図4も「太陽」や「車」「家」「遊園地」に、図形を意識した描画表現がみられるが、「虹」や人物の表現は、見立てや図形の位置は意識せず、自由に描いている。したがって、自由画とほぼ同じであると考えられ、男児の「乗り物」、女児の「ひと」「花」といったモチーフの報告<sup>19)</sup>との共通性が認められた。

② 重ね描き

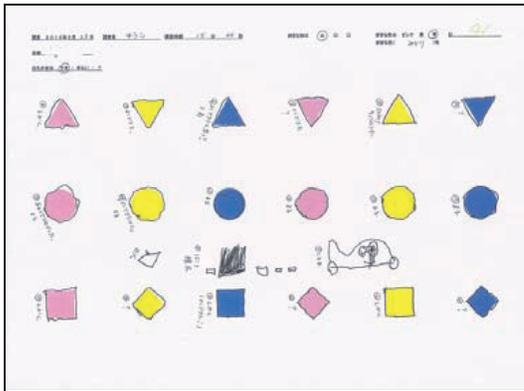


図5 6歳 男児

左上から：四角、よくできた、三角、わからない、長方形、  
わからない  
左中：(すべて) 丸  
左下から：四角、わからない、四角、わからない、四角、  
わからない

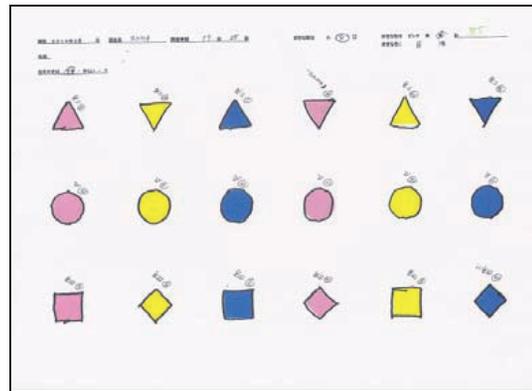


図6 5歳 女児

左上から：三角、三角、三角、わからない、三角、三角  
左中：(すべて) 丸  
左下から：(すべて) 四角

重ね描きの描画表現も小学生は皆無で、幼稚園児にのみみられた。図5の6歳男児の描画は、描いたものについて図形の名称を答える、「よくできた」「わからない」という感想を述べている場合もあり、この調査の指示を理解できていないことがわかる。図形の名称を答えている場合、三角と四角の混乱もみられる。余白には左から「バツ」「箱と積み木」「車」が描かれ、図形を用いて表そうとする様子にみられる。図形□については「四角」、図形を回転させた図形◇になると「わからない」と答えている。図6の5歳女児の描画は、すべて図形の輪郭線に沿って描かれ、何に見立てて描いたかの問いにも、ひとつを除き、図形の名称で答えていることから、見立てて描くことを理解していないと判断することができる。これらの重ね描きには、表現したい具体的なモチーフが存在していないことから、性差は認められなかった。

③ 図形の内に描く

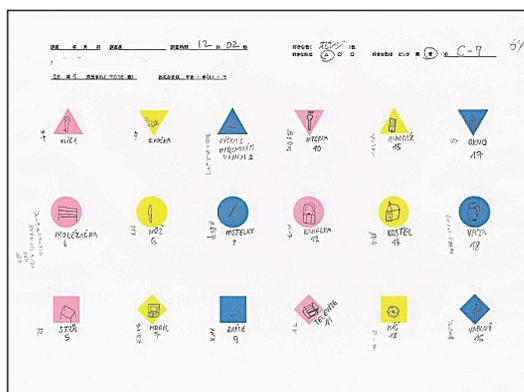


図7 10歳 男児

左上から：鍵、猫、お皿の上ののったブドウ、懐中電灯、  
マンション、窓  
中左から：遊具、ナイフ、色鉛筆、バッグ、教会、水差し  
左下から：机、携帯電話、メガネ、テレビ、ボール、りん  
ごの木

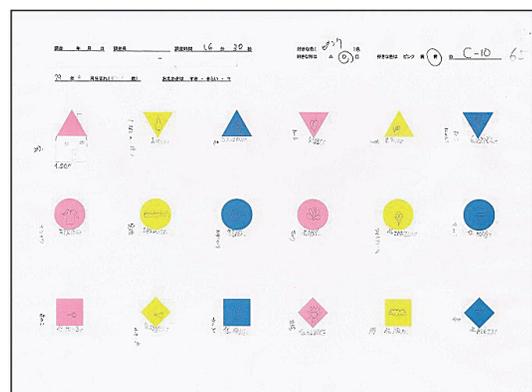


図8 9歳 女児

左上から：家、梨、花、ハート、手、猫  
中左から：Tシャツ、定規、蝸牛、蝶、アイスクリーム、  
きのこ  
左下から：きのこ、小さい魚、カップ、太陽、雲、星

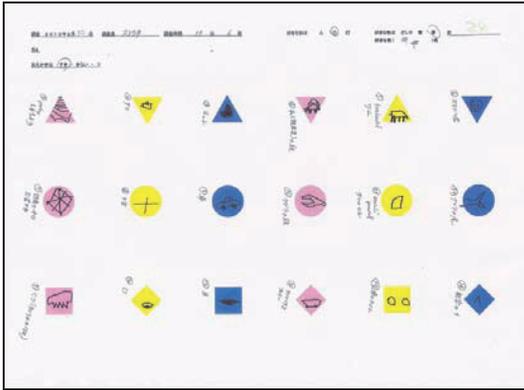


図9 6歳 男児

左上から：縞模様、サメ、ヨット、顔、ワニ、スマイル  
 左中央から：星、十字、車、クジラの顔、サメのヒレ、  
 クジラの尾  
 左下から：靴、口、目、フェリー、車のライト、数字の1

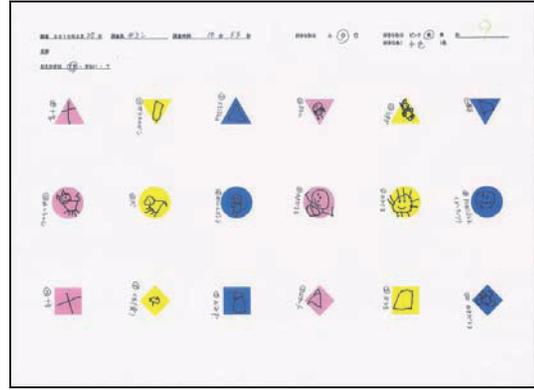


図10 5歳 女児

左上から：十字、ガラスの壺、三角、オウム、うさぎ、絵本  
 左中央から：猫、犬、人形、雪だるま、おひさま、ドーナツ  
 左下から：十字、雲、水、ロケット、家、雪だるま

図形の内側に描く描画表現は、幼稚園児と小学生に共通してみられた。どの描画も、図形の枠の中に絵を収めている。図形の見立てを理解はしていないが、それぞれに線描を描き加えるという条件は理解されている。同じ内側の表現であっても、図10の男児の描画には、図形を意識している様子がうかがえる。図形と形に類似した描画が、図形の中に描かれているからだ。図形△の中に△を、図形○には、丸い顔を持つモチーフを、図形□には、「十字」「家」など、線的な表現がみられる。図形を見立てるという条件は満たしておらず、図形の中に好きな絵を描いた、と考えることができる。同じ生き物を描くにしても、男児は「クジラ」や「ワニ」を、女児は「うさぎ」や「猫」などを、さらに男児の「フェリー」、女児の「ハート」と、自由画同様モチーフに性差が認められた。

④ 図形の外側に描く

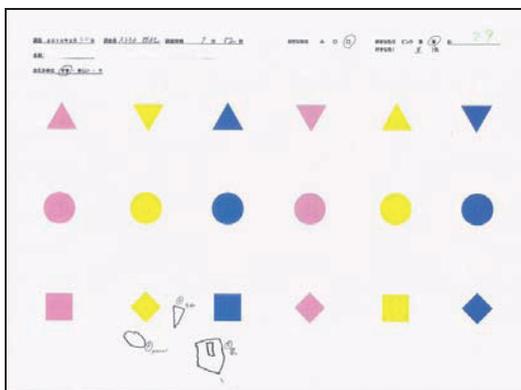


図11 4歳 男児

左から：スマイル、テント、家

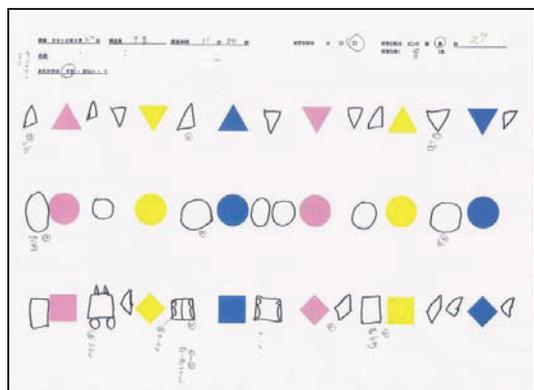


図12 6歳 女児

左上から：三角、(無回答)  
 左中央から：楕円、(無回答)、丸  
 左下から：(無回答)、トラム、カーテン、カーテン、長方形

小学生、幼稚園児にみられた描画表現である。図11の男児の描画では、見立てとは無関係ではあるが、提示された図形を意識している形を自ら描いている。印刷された図形は使っていないが、図形を見立てて描画表現する、ということを理解していると考えられる。しかし、図12の女児の図形△と図形○については、提示された図形の横に同じ図形を描いて、模写をするという表現になっている。図形□では、

模写をしながらも、「トラム」や「カーテン」など図形の形を意識した描画が表されている。図形を見立てて描くということを正しく理解していない様子がうかがえるが、自由画のように好きなものを表現しているわけでもない。自分なりに指示されたことを解釈し、ルール化した中での表現だと考えられる。図形の外側に描いた場合では、性差は認められなかった。

(2) 見立てが成立している描画の場合

図形の見立てが成立している描画表現の分類は、以下のとおりである<sup>20)</sup>。

表2 図形の見立てが成立している描画表現分類

見本の模倣	指示を受ける際の、見本の影響を受けている
反復	同じ表現、あるいは類似した描画表現が繰り返される
単体	図形の単体での見立てをしている
複合体	図形を複数用いて、見立ての描画表現をしている
複合体・図形を描き加える	提示された図形にさらに自身が同じ図形を描き加えて、描画表現をしている
物語性	個別に独立した描画であっても、連続した物語が展開されている

① 見本の模倣

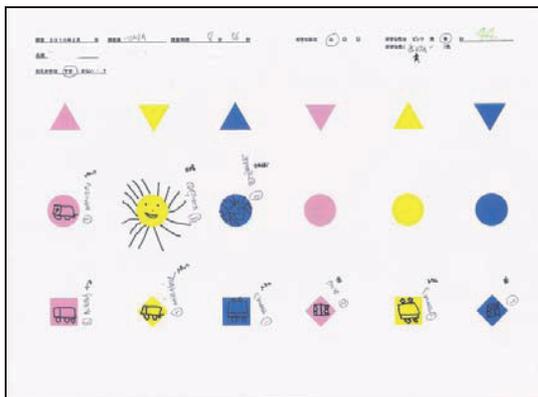


図13 4歳 男児

左中央から：トラック、太陽、地球  
左下から：バス、トラック、トラム、窓、トラム、窓

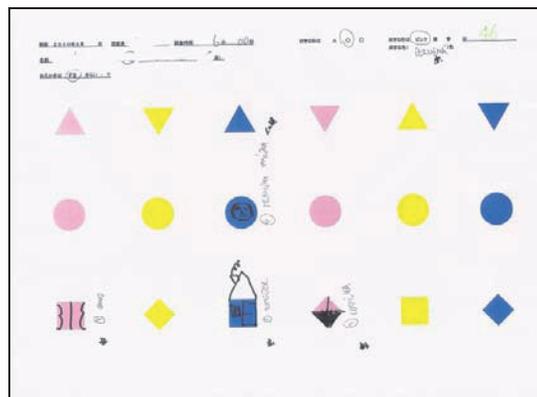


図14 6歳 女児

左中央：ひとの顔  
左下から：窓、家、船

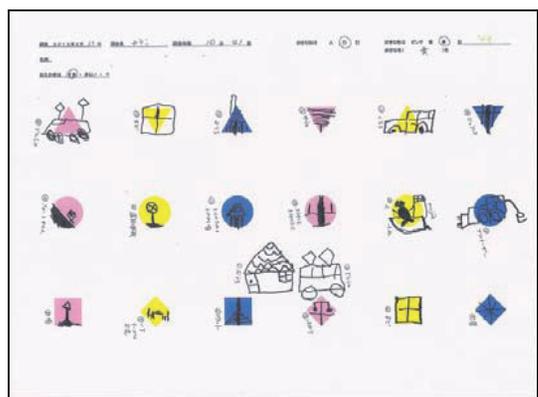


図15 6歳 男児

左上から：電車、窓、家、屋根、車、標識  
左中央から：坂と女の人、道路標識、鳥の餌場  
蠟燭と蠟燭立て、ひとと船、ブルトージー  
左下から：塔、椅子とテーブルと花、ロケット、秤、窓、星

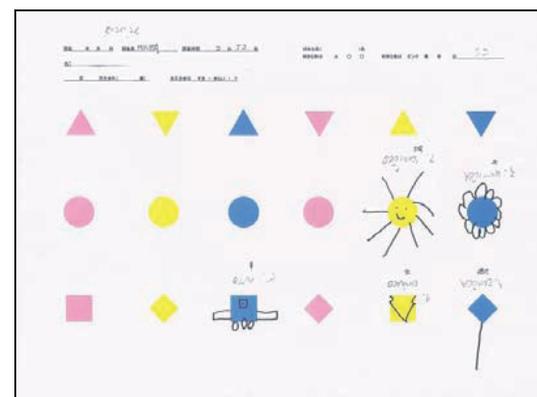


図16 6歳 女児

左中央から：太陽、花  
左下から：車、窓、標識

見本に提示した絵は、長方形の図形に線描を加えた、「電車」「窓（カーテン付き）」である。これらの見本に明らかに影響を受けたと判断できる描画表現は、上記の4名の調査用紙に認められ、幼稚園児のみの表現であった。描く順番も記録したが、模倣の場合、図13、14、16は1番目に「窓」を描いている。見本に近い図形□に描き始めていることから、見本の影響が大きいことが推測される。図15は中盤、後半に見本に類似した描画を描いていることから、見立てが思いつかなくなったときに、見本を思い出しながらかいたことが考えられる。見本の模倣と考えられる描画表現には、大きな性差は認められない。

② 反復表現

同じモチーフの繰り返し、または類似したモチーフの描画表現が行われた場合を指す。

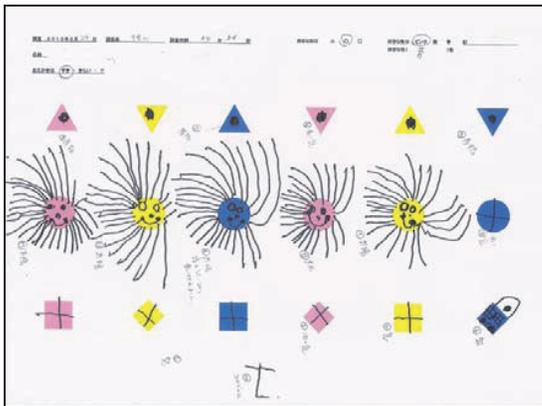


図 17 4歳 男児

左上から：屋根、屋根、屋根、丸い窓、屋根、屋根  
 左中央から：太陽、太陽、太陽、太陽、太陽、丸い窓  
 左下から：窓、窓、窓、次の窓、窓、家

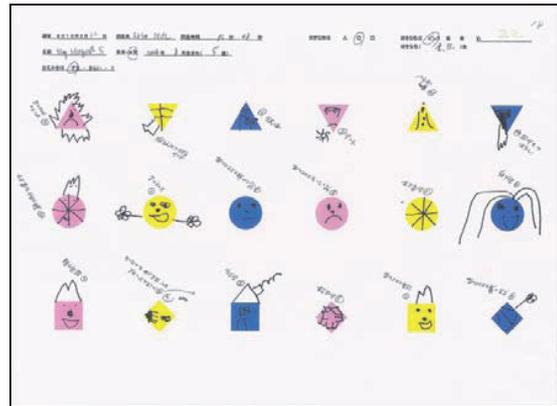


図 18 5歳 女児

左上から：ピンクのスマイル君、テント、日光浴、テント、帽子、冠付きの帽子  
 左中央から：顔のあるお星さま、スマイル君、悲しい顔のスマイル君、怒っているスマイル君、お星さま、人形  
 左下から：四角の顔、(隣の家の)人が日光浴をしている、家、太陽、四角スマイル君、大きい鼻のスマイル君

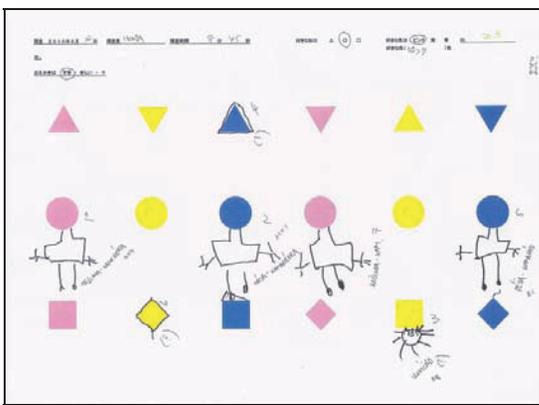


図 19 4歳 女児

左上から：わからない  
 左中央：(すべて) 友達  
 左下から：わからない、太陽

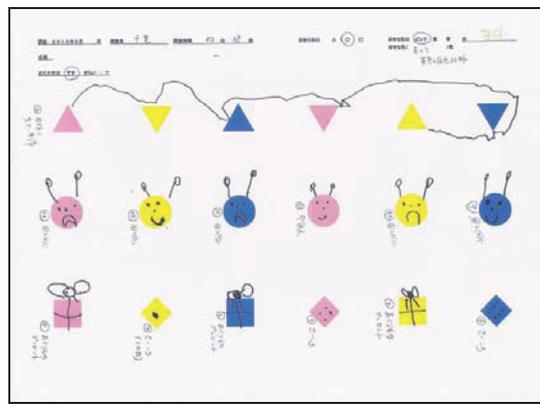


図 20 4歳 女児

左上から：(全体で) おおきい列車  
 左中央：(すべて) 宇宙人  
 左下から：プレゼント、サイコロ、プレゼント、サイコロ、プレゼント、サイコロ

反復表現は、幼稚園児、小学生ともに認められた。図17の男児はどの図形についても、パターン化した描画表現がみられた。また、図18に限らず、「スマイル君」が流行しているようで、描いている子どもが複数みられた。すでにパターン化されているイラストが元になっているので、自分で考えた絵とは違い、いわゆるキャラクターもの、と位置づけられる。図19では、図形○を顔に見立て、しかしそこに表情は描かれず、体が描き加えられている。体はパターン化されていること、同じように描かれていることから、この女児が普段から描き慣れている表現だと推測される。図20の図形○は全部「宇宙人」である。口の形が交互に違っているが、これもパターン化した表現の反復である。また、図形□についても、「プレゼント」と「サイコロ」が交互に描かれ、「サイコロ」の数が異なっているものの、反復した表現である。皆本<sup>22)</sup>のまとめた自由画にみられる性差の特徴でも、女児の反復表現が報告されているが、図形が並んだ状態で提示されていることもあり、パターン化や反復表現は、より一層描かれやすいことも考えられる。

### ③ 単体図形による表現

調査用紙上の図形は全部で18個あり、それを単体として使う、複数一緒に使う、ということについては、指示していない。質問があった場合は「好きに描いて良い」ということを伝えている。単体は、図形ひとつにつき、ひとつの見立ての描画表現が行われていることを指す。

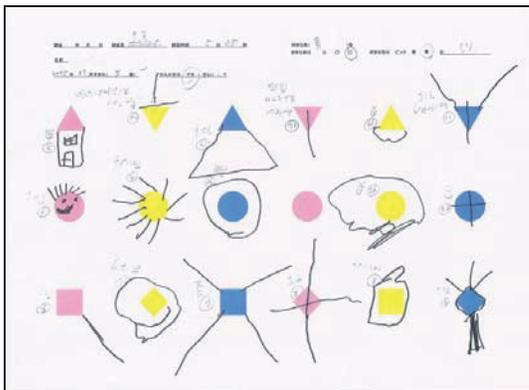


図 21 5歳 男児

左上から：家、鳥の餌場、テント、煙突の屋根、貝、テント

左中央から：男の子、太陽、輪、貝、窓

左下から：風、おばけ、星、十字、バディンエ、風

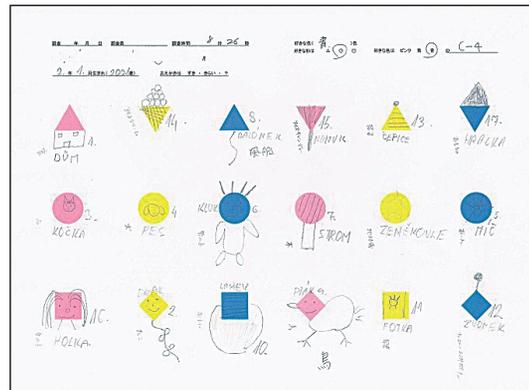


図 22 10歳 女児

左上から：家、アイスクリーム、風船、アイスクャンディー、帽子、おもちゃ

左中央から：猫、犬、男の子、木、地球儀、ボール

左下から：女の子、風、ボトル、鳥、写真、玄関の呼び鈴

単体図形による表現では、モチーフに、男児と女児に共通性がうかがわれる。ここでは「家」「男の子」が共通のモチーフであるが、図形の見立ての描画表現では、他の子どもの表現にも男女を問わず、「ボール」「太陽」「アイス」は多くみられたモチーフである。図形からイメージするものは、子ども自身の生活に密接なものが多く、同じ小学校や幼稚園で過ごす時間も長いことから、モチーフに共通性がみられる頻度も高いのかもしれない。

④ 複合体による表現

提示された図形を複数用いて見立ての描画表現を行った場合を示す。

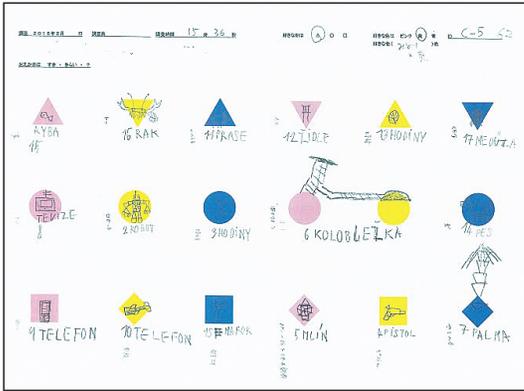


図 23 10歳 男児

左上から：魚、蟹、猪、椅子、時計、くらげ  
左中央から：テレビ、ロボット、時計、キックボード、犬  
左下から：電話、電話、信号機、パンの粉を混ぜる機械、ピストル、ヤシの木

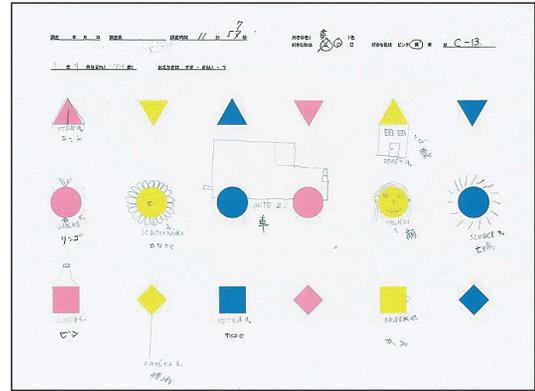


図 24 10歳 女児

左上から：テント、小さい家  
左中央から：りんご、ひな菊、車、顔、太陽  
左下から：瓶、標識、サイコロ、カップ

図23のキックボード、図24の車が、複合体による表現である。この他の子どもの調査用紙にも図形を2個使用した表現がみられたが、本調査では見立てとして適切に3個以上の図形の使用をした描画表現は、認められなかった。また、使用した場合のモチーフのほとんどは「乗り物」であり、それは男児女児問わず、共通していた。

⑤ 複合体・図形を描き加えた表現



図 25  
(図22の部分拡大)

提示された図形に、子ども自身が図形を描き加えた描画表現がこれにあたる。今回の調査では、図22の「おもちゃ」のみが、この表現に該当した(図25)。図形▽に対して、△を合わせるように描いている。これも、指示はしていないので、子どもなりの表現と考えることができる。これまでの調査でも一般的な描画表現とはいえず、子ども自身がこの表現方法に気がつくことは少ない。また、描き加える場合、取り組んだ図形と同じ形を描き加えることが多い。

⑥ 物語性

調査用紙に表される描画が、単独で完結するのではなく、何らかの物語でつながっていることが考えられる表現を指す。

ここでは図18の図形□に対して「家」とその左隣に描かれた「隣の家の人が日光浴をしている」が唯一該当した。日本での調査でも、女児がお話を作りながら描くことがあった。調査中に調査員と会話をするの、女児の方が高い傾向にあった。お話し好きな女児ならではの、描画表現なのかもしれない。

4. まとめ

図形による見立ての描画表現が、不成立の描画表現では、見立てを理解していない場合、自由画と同類のモチーフが描かれることが多く、したがって自由画の性による特徴とも共通性が高かった。しかし、見立てが理解できなくても、自分なりのルールを持って描画表現するとき、性による表現の違いは埋没する

傾向がみられた。また、図形による見立ての表現が成立した描画表現では、自由画ではみることがほとんどない、男児の「花」や、女児の「乗り物」の表現がみられた。特に、2個の図形を用いた見立ての描画表現では、男女ともに「乗り物」を描く可能性が高いことがわかった。反復表現は、自由画で女児の特徴とされているが、ここでも同様に女児に多くみられる傾向がうかがわれた。ただし、男児では皆無、というわけではないので、自由画に比べると性による表現の特徴が小さくなることが考えられる。

これらのことから、保育活動の中で課題を設定する場合、あるいは教材や画材を考えると、条件が多く、子どもにその条件が理解されるほど、性的な特徴は少なくなることが予想される。逆に、子ども自身に任せた課題活動の場合、そこには性による表現の特徴がより顕著にみられることが考えられる。活動の目的に合わせた、課題設定や教材、画材選びが重要であり、また、指導や援助についても、そのことを想定しながら行うことが大切である。

今回は調査対象者がチェコの子どもに限定されているので、今後は日本の子どもの見立てによる描画表現とも比較検討すること、性別、年齢別の人数も偏りがなくなるよう調査を重ね、さらに検証したい。

本研究は科学研究費助成事業「幼児の図形による見立ての描画表現—年齢、環境、性差からの検討—（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）23531080）」の助成を受けた。

## 註

- 1) V.ローウェンフェルド. 美術による人間形成. 黎明書房. 1995
- 2) R.ケロッグ. 児童画の発達過程. 黎明書房. 1998
- 3) 本研究において、性差、性別とは、生物学的な意味を指す。
- 4) W.ヴィオラ. チェコの美術教育. 黎明書房. 1999
- 5) W. L. プリテン. 幼児の造形と創造性. 黎明書房. 1983
- 6) 横井正紀, 寺戸史子. 造形的イメージに関する関係性についての一考察. 美術教育学. 1988. 第16号. P.341-352.
- 7) 上野行一. 発達段階比較による「みだて」能力:探索過程における意味づけの多様性と拡張に関して. 美術教育学. 2000. 第23号. p.97-107.
- 8) 若山育代. どのような言葉かけが幼児の発想を支援するのか?—見立て絵にみられる4歳児と5歳児の想像的・情緒的表現に着目して—. 美術教育学. 2008. 第29号. p.631-643.
- 9) 平田智久. 幼児の描画表現におけるBaseLine(基底線)獲得に関する一考察(2). 日本保育学会大会研究論文集. 2000. 第53号. p.520-521.
- 10) 皆本二三江. 0歳からの表現・造形. 文化書房博文社. 1991. p.56
- 11) 宇佐美明子. 幼児の立体造形における性差(5)—紙箱の加飾性について—. 日本保育学会大会研究論文集. 1995. 第48号. p.302-303.
- 12) 宇佐美明子. 好む枝から見える性差と造形表現の関連. 日本保育学会大会研究論文集. 1999. 第52号. p.38-39.
- 13) 酒井英樹, 安藤麻里, 村田浩子, 佐藤昌子. 幼児の色彩嗜好—保育園児の調査研究から—. 日本色彩学会誌. 2005. 第29号. p.44-45.
- 14) 清水隆子. 幼児のジェンダー発達—色彩選好に関する一考察—. 日本教育心理学会総会. 2002. 第44号. p.199
- 15) 島田由紀子. 幼児の見立て—図形からの見立ての描画発達と性差—. 美術教育学. 2011. 第32号. p.173-184.
- 16) 島田由紀子. 幼児の色彩感情(2) チェコと日本の幼児の比較を中心に. 美術教育学. 2002. 第23号. p.97-107.
- 17) 酒井英樹, 安藤麻里, 村田浩子, 佐藤昌子. 幼児の色彩嗜好—保育園児の調査結果から—. 日本色彩学会誌. 2005. 第29号. p.44-45.
- 18) 千々岩英彰. 色彩学. 福村出版. 1983. p.158.
- 19) 前掲15)
- 20) 前掲10)
- 21) 前掲15)
- 22) 前掲10)

Up to today, children's expression in drawing has been researched mainly from the age development point of view. However, in recent years, it has been pointed out that there are some formative expression differences depending on sex. It was also predicted that the characteristics of drawing expression would be different when using geometrical shapes from free drawing. The objectives of this research are to classify child development of distinguishing and drawing geometrical shapes, and to understand sex characteristics of expression in free drawing. Research candidates were 67 children, kindergarten students and elementary school students in the Czech Republic. Research was conducted for each child by using one A3 sized paper with drawings of a total of eighteen geometrical shapes consisting of six each of triangles, circles and squares of which two each had been colored pink, yellow and blue. Children were asked to distinguish those shapes as some objects and to add some lines to them. Research time was until the children themselves said they had completed the project. The research took place in 2010 and 2011. When a child could not distinguish a shape as any object, there was not much sex difference recognized in the drawing. When a child distinguished a shape, girls tended to repeat drawing the same motif more often, and the same characteristics were shown at free drawing. When drawing using two shapes, vehicular machines were often drawn. Vehicular machines are the motifs that were often used by boys in free drawing, but girls also drew them when distinguishing shapes. Boys also used the motifs such as flowers. When distinguishing geometrical shapes, the sex characteristics in drawing tend to stand out less. This seems to indicate that, depending on childcare activities, materials and assignments, emphasis of sex difference in expression varies, demonstrating that ways of preparation, coaching and support may need to be considered.

島田由紀子 (和洋女子大学人間・社会学系准教授)

(2012年11月20日受付)